

令和3年度第6回印西市学校適正配置審議会 会議録

- 1 開催日時 令和4年3月22日(火) 午前10時～午前11時10分
- 2 開催場所 印西市役所別館1階 農業委員会会議室
- 3 出席者 桜井 繁光 委員、内田 圭子 委員、押田 香代子 委員、
井上 愛一郎 委員、坂木 武伸 委員、渡邊 義規 委員
- 4 欠席者 なし
- 5 事務局 大木教育長、五代教育総務課長補佐、小池係長、佐久間学務課長、
寺島副参事、秋山係長、小森谷主査
- 6 傍聴者 3名
- 7 議 事 (1) 持続可能な学校数のシミュレーションについて
(2) その他
①第二次印西市学校適正規模・適正配置基本方針の策定に向けた
スケジュール(案)について
- 8 議事録 (要点筆記)

事務局 本日はご多用のところ、当審議会の会議にお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

会議に先立ちまして、何点かご説明とご報告をさせていただきます。

まず、配付資料の確認をさせていただきます。

会議次第、審議会から要望のあった資料、資料1、資料1補足、資料2、資料3となっておりますが、不足はございませんでしょうか。

<不足なし>

事務局 次に、会議の公開と傍聴についてでございますが、当審議会につきましては、印西市市民参加条例第11条第4項の規定により、原則公開とさせていただきます。

また、傍聴につきましては、同条例施行規則第12条第3項の規定に基づき、事務局が作成した傍聴要領に沿って受付しておりますことをご報告いたします。

なお、現時点での傍聴者は2名でございますが、会議途中で傍聴の希望があった場合は、随時入室を許可したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

次に、会議の録音及び会議録の署名等についてでございます。

当審議会の会議につきましては、会議録を作成する都合上、録音させていただきます。

また、会議録の署名につきましては、毎回2名の委員の方をお願いしており、

本日は、坂木委員と渡邊委員にお願いいたします。

なお、会議録につきましては、ご署名いただいた後、市役所の行政資料室への設置やホームページへの掲載により公表いたします。

会議録の公表にあたりましては、発言者の氏名を伏して行いますことを申し添えます。

それでは只今より、令和3年度第6回印西市学校適正配置審議会を開催いたします。

はじめに、会議の開催について、ご説明とご報告をさせていただきます。

印西市学校適正配置審議会設置条例第7条第2項において、審議会の会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができないと規定されております。

本日の出席委員は、6名中6名でございますので、同条例の規定に基づく定足数に達しておりますことから、ここに会議が成立いたしますことをご報告させていただきます。

それでは、会議次第に従い、会議を進めてまいります。

はじめに、次第の2、会長あいさつ、井上会長よりご挨拶をいただきたいと思っております。

会長 本日は、年度末の大変お忙しい中、また、雨が降って寒い中、審議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

昨日をもって、まん延防止の方も解除になりまして、少しほっとしているというような状況でございます。

今日の審議会の方ですが、持続可能な学校数のシミュレーションについてということで審議をすることになっております。

今日の議題については、財政面からの学校適正配置についての審議という形になります。

これまでになかった議題だとは思いますが、適正配置を進めていく上で非常に重要な視点の一つになると思っておりますので、委員の皆様から忌憚のないご意見を頂戴できればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。

それでは早速、議事に入りたいと思っております。

ここから先の進行は、井上議長にお願いいたします。

議長 それでは、次第の3、議事に入ります。

(1) 持続可能な学校数のシミュレーションについてを議題とします。
事務局より説明をお願いします。

事務局 【資料に基づき説明】

議長 只今、事務局から説明がありましたが、始めに審議会から要望のあった資料ということで、修学旅行費及び卒業アルバムの制作費に係る自己負担額について、皆様から何かご質問等があれば、お願いいたします。

委員 この件については、前回私の方から要望させていただきましたが、丁寧な回答をいただき、ありがとうございました。

少し細かいことですが、合計の数字というのは、どういう意味なのか教えてください。

事務局 こちらの数字につきましては、学校全体の平均を記載しております。

議長 その他ございますか。

<意見等なし>

議長 続きまして、持続可能な学校数のシミュレーションについて、ご意見等があれば、お願いします。

委員 将来を考えると、財政面からも児童生徒数のことを考えても、今の状態では、やっていられないということが分かりました。

削減する必要がある学校の数が多いので、大変なことだなと正直感じます。

船穂小学校や本埜中学校の小規模特認校制度の検討の前に、この資料が提示されていたら、2校の我々の考え方が少し変わったのではないかなと思います。

議長 その他ございますか。

委員 このことは、本当はいつ頃分かっていたのかということが知りたいです。

この会議が立ち上がって、これまで7年間やってきたのですが、今までは、小規模校は、児童生徒数が少ない学校が出てきたら、説明会などを何度も開いて、統合するような形で、大規模校は、増築や通学区域の変更で対応していくような形で、7年間やってきましたが、今回説明のあったことについては、どれくらい重きを置く必要があると考えているのか教えてください。

この考え方を基本に、予算の中でこれからのことを考えていくのであれば、そのようにやっていきますし、子供達の教育とか、災害時の避難所などを含めて、地域で果たす役割とかを優先していくという、今までのやり方で進めていくのか

で、この基本方針の策定をどのように考えていったら良いのかということが変わってくるので、このことを市民の皆さんに広く知らせる必要があると思います。

全部の学校の校舎がボロボロになってしまうような状態は避けたいため、市全体を考えて、どのように進めていくのかということを市民全体に知らせていただけると、私たちもこの会議の中で、それに向けてやっていくことができますので、今後の方向性をここできちんと決めていただきたいと思います。

そのためには、いきなり15校にするということになると、市民の皆さんがびっくりしてしまいますので、なんでこのようになるのかというようなことを、小規模校、大規模校だけではなく、全市民の皆さんに広く知らせて、ご理解頂いた上で進めていくことがポイントなのかなというふうに思います。

事務局 委員からのご質問で、いつ頃分かっていたのかということですが、平成29年3月に印西市公共施設等総合管理計画が出され、初めて、市の公共施設等の維持管理について、将来的に財源不足となることが、数字上ではっきりしたということになります。

印西市の学校適正規模・適正配置を考え出したのは、平成26年度からで、印西市学校適正規模・適正配置基本方針が策定されたのが、平成28年10月であり、その後に印西市公共施設等総合管理計画ができましたので、最初に適正配置を考えるときには、市の財源等については、一切考慮されておらず、教育的な配慮だけを考慮して策定したところでございます。

その後、令和3年3月に印西市学校施設長寿命化計画が出され、今日お示したような具体的な財源不足がはっきりして、このままでいったら、15校程度しか学校の維持管理ができないということが分かってきたため、そういうことを踏まえて、新しい学校適正規模・適正配置基本方針を策定する必要があると考え、審議会に諮問し、審議をいただいているという状況でございます。

資料1の最後にも書いてありますが、今回説明させていただいた内容については、一応の目安で考えていただければと思います。

印西市はデータセンターの建設など色んな形で開発等が進んでおり、財源が増加する可能性もあり、今後、公共施設を作るという計画もあるので、維持管理が必要となる施設が増えていく一方、減っていく施設もあるかもしれないため、30年間の見通しが不確定な要素がありますが、現段階で、今ある施設をそのまま維持管理していくという前提で考えた場合には、これだけの財源不足になるため、学校数はかなり減らさなければならないこととなります。

しかしながら、これは一つの目安として、実際には、子供達が歩いて通う小学校、遠ければ自転車で通う中学校、また、場合によっては、スクールバスといったことを考えますと、あまり通学距離を長くすることはできませんので、どうしても残さなければならない学校もあろうかと思えます。

そういったことも、地域ごと地区ごとに考えていただいて、必要最小限の学校数にしていくような計画を作りたいというふうに思っております。

ただし、大前提として、学校の統廃合については、保護者や地域の方のご理解をいただいた上で実施することであって、ご理解いただければ統合することはできません。

現在小規模特認校制度を導入しようとしている学校についても、学校統合のお話をさせていただいておりましたが、何とか学校を存続させたいため、小規模特認校制度を導入してもらえないかということで、署名活動が行われて、議会に請願書が出され、それが採択され、それを無視するわけにはいきませんので、まだ保護者の説明会ができておりませんが、ご理解いただければ、小規模特認校として存続させていきたいと考えております。

印西市内の各地区で、そういった方向になってしまいますと、学校数を減らすことができませんので、学校施設の十分な維持管理ができなくなり、具体的には、財源が不足する場合には、保全改修を20年目ではなく、25年目で行う、大規模改修を40年目ではなく、50年目で行うといったように、改修工事の間隔を先延ばしにしていくしかないことが分かっております。

そのため、千葉県内でも、毎年約10校から20校ぐらいの学校が統合しており、市の財政状況などを考えて、やむを得ず、統合をしている自治体も多い状況となっております。

そういった状況があるので、印西市でも、具体的に数字を出していく必要があると考え、今回このような細かい数字を出させていただきましたが、必ず15校に減らすということではなく、地域性などを考えて、可能な限り学校数を減らしていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

議長 他に何かございますか。

委員 お話しは良く分かり、状況を見ながらやっていくしかないということが分かりましたが、例えば、15校とは言えないまでも、学校数を段階的に減らしていき、10年後には大体20校位まで減らしていきたいとかいうようなことを決めていただいた方が進むと思います。

実際には、一つの学校をなくすのは、とても大変なことだと思うので、統廃合を簡単に口にするのも難しいし、保護者と意見交換をすると、学校を残したい気持ちが出てくると思いますが、この現状があるので、ある程度の方向性は、出していった方が良いのではないかと思います。

保護者へ説明しに行く教育委員会の人達だけが矢面に立つのではなく、我々自身も覚悟を決めて、計画を作っていくつもりでやっていかないと進まないのかもしれないという感じがします。

議長 他に何かございますか。

委員 財政的には大変厳しい状況だということが、良く分かりました。
先程委員がおっしゃったように、例えば、目標を20校にしていくという見方もできるかもしれませんが、これまでの学校適正配置シミュレーションについては、過小規模校と大規模校についてのシミュレーションだったと思うので、第二次については、適正規模校と準適正規模校については、ある程度適正な規模の学校なので、小規模校をどのようにしていくかというシミュレーションが大きな話し合いのテーマになるのではないかなという気がします。

ただ、小規模校を全部まとめると言っても、なかなかうまくいかないと思うので、地域性や通学距離などを考えながら、小規模校をどのように再建できるのかというところが、話し合いのポイントになると思っています。

議長 その他ございますか。

委員 私もこの資料を読ませていただいたときに、本当に大変なことだなと思ったところですよ。

我々が出していく計画の中で、例えば、何年後かに15校にしたいということにすると、その15校という数字だけがどんどん出ていってしまって、実際前にもありましたが、結局お金のために学校をなくすのかというようなことを言われてしまうこともありますので、通学距離のことなどを考えながら、子供達がより安全に通学しながら、充実した学校生活を維持するためには、どうしていくのが良いのか考えていくしかないのかなと思っています。

議長 その他ございますか。

委員 お金の問題が出てくると、オッと思ってしまうよ。

それに、30年先のことは、ちょっと想像がつかないなと感じました。

先程他の委員がおっしゃっていたように、もう少し短い期間の中でスケジュールを組んでいかないといけないのかなと感じています。

やはり子供達の安全が一番で、通学路や学習環境、校舎、校庭等々について、ないがしろにはいけないというふうに感じます。

議長 その他ございますか。

委員 やはり将来のことも考えていなくてはいけないと思うので、この資料はすごく良い資料だと思います。

行き当たりばったりのことはできないわけで、将来こうなるということがわかっているのであれば、それに対応して考えた方が良いでしょう。

今お金の面だけをおっしゃっていましたが、児童生徒数を見ても、地域性を考えず、学級数だけを考えれば、13校から15校あれば収容できるということです。財政面や児童生徒数のことを含めると、将来的に15校から16校にするようなことも考えておく必要があると思います。

このまま今の財政状況がずっと保たれるわけではなく、落ちる場合もあるはずなので、今の時点でのシミュレーションを決めておく必要があると思います。

議長 その他ございますか。

委員 15校というのは、小学校が10校、中学校が5校と思うから、大変だと思いますが、義務教育学校だったら、小学校も中学校も一緒だから、15校もいらないわけで、7校、8校あれば良いわけです。

そうするためには、思いきらないといけないし、スクールバスが飛び交うことになると思いますが、そういうような考え方もできるので、柔軟に大きく物事を見ていくことが、とても大事なことだと思います。

議長 その他ございますか。

<意見等なし>

議長 それでは、委員の皆様からご意見を頂戴しましたが、今日説明のあった財政的な部分についても考えながら、また、今まで適正規模についても話し合ってきましたので、それについても考慮しながら、適正配置について考えていくということをお願いしたいと思います。

なお、財政的な部分から見ると、学校施設を維持管理していく上で、15校が理想的な学校数となりますので、そういうことも頭に置きながら、審議の方を進めていくという形をお願いをしたいと思います。よろしいでしょうか。

<異議なし>

議長 続きまして、議題の(2)「その他」の①第二次印西市学校適正規模・適正配置基本方針の策定に向けたスケジュール(案)につきまして、事務局より説明をお願いします。

事務局 【資料に基づき説明】

議長 只今、事務局から説明がありました。ご質問等はございますか。

委員 11月17日の会議で説明のあった小規模特認校制度の導入に向けたスケジュールについてですが、2月に小規模特認校の対象学区の保護者への説明会を行い、3月上旬に説明会の結果を審議会へ報告、それから、市議会への報告が行われる予定となっておりますが、新型コロナウイルスの影響で、予定がずれ込んでいます。今後のスケジュールはどのようになりますか。

事務局 当初は、3月上旬に学校適正配置審議会の中で保護者等への説明会の結果を報告することとしておりましたが、現時点で、保護者等への説明会が開催できていない状況でございますので、今後、説明会を実施した後に、審議会へ報告をさせていただきますと考えております。

議長 小規模特認校については、新たに動きがありましたら、審議会の中で報告をしていただきたいと思います。現状として、移行期間である来年度の4月における小規模特認校の対象校への学区外就学の状況を教えてください。

事務局 現時点で、小規模特認校を理由とする学区外就学については、船穂小学校1名、本埜中学校0名でございます。

議長 学区外就学をする児童は、何年生で、どこの小学校の学区からになりますか。

事務局 来年度6年生で、木刈小学校区でございます。

議長 その他ございますか。

<意見等なし>

議長 それでは、スケジュール（案）については、原案のとおりよろしいでしょうか。

<異議なし>

議長 その他、事務局から何かございますか。

事務局 特になし。

議長 本日の議題につきましては、全て終了しました。
進行を事務局にお返しします。

事務局 ありがとうございます。
続きまして、次第の4、その他に入らせていただきます。
事務局から、連絡事項がございますので、担当からご説明いたします。

< 次回の会議日程及び委員報酬について説明 >

事務局 事務局からの連絡事項は以上でございます。
その他ということで、委員の皆様からは何かございますか。

< なし >

事務局 それでは、以上をもちまして、令和3年度第6回印西市学校適正配置審議会を終了させていただきます。
長時間にわたり、ご審議をいただきまして、ありがとうございました。

会議資料

- ・ 会議次第
- ・ 審議会から要望のあった資料 令和3年度 修学旅行費及び卒業アルバム制作費に係る児童生徒一人当たりの自己負担額について
- ・ 資料1 持続可能な学校数のシミュレーションについて
- ・ 資料1 補足 「持続可能な学校数のシミュレーションについて」において用いた数値の根拠
- ・ 資料2 中学校区における学校規模の状況（令和4年4月1日見込）
- ・ 資料3 第二次印西市学校適正規模・適正配置基本方針の策定に向けたスケジュール（案）

令和3年度第6回印西市学校適正配置審議会の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和4年4月11日

委 員 坂木 武伸

委 員 渡邊 義規